



農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.lg.jp/nodai/>

第 20 号 香川県立農業大学校

〒766-0004

仲多度郡琴平町榎井 34-3

TEL 0877-75-1141 FAX 0877-75-3989

E-mail : nodai@pref.kagawa.lg.jp

校長あいさつ 先進地視察研修報告 全国・中四プロジェクト発表会 □卒論発表会 □同窓会
だより □活躍する卒業生 □技術研修科だより □頑張る修了生 □学生募集 □教職員名簿



4 月 11 日 入学式



入学生宣誓 山下明日香さん

かがわ農業 MBA 塾
を開講します

校長 高橋 清

平成二七年度の県内での新規就農者数は一五八名となり、近年では最高となりました。

農業を持続するためには、農業技術を身に付け、生産を安定させるとともに、農業経営体として経営を安定させることが重要です。

農業大学校では、農業経営力の向上を図るため、働きながら農業経営を総合的に学べる「かがわ農業 MBA 塾」を七月に開講します。経営管理、マーケティング、労務管理、財務管理の各分野を座学だけでなく、グループワークを取り入れ、受講者同士が考えを出し合いながら切磋琢磨します。

自家経営の分析からスタートし、講義を通して将来目標を実現するための経営計画を練り上げます。

かがわ農業 MBA 塾が、現状を打破し、ステップアップを図りたい農業経営者の学びの場となるよう取り組みます。

先進地視察研修報告

野菜園芸コース



鎌倉野菜生産者の話を聞く

野菜園芸コースは神奈川県で視察研修を行いました。

研修のテーマは、近年話題になることが多い「鎌倉野菜」で、一日目は鎌倉野菜を扱う飲食店で野菜パフェのチーズフォンデュを試食しました。

二日目は、鎌倉野菜の代表的な販売所である鎌倉市農協連即売所を訪れ、見学を行うとともに生産者の代表の方にお話を伺いました。販売されている鎌倉野菜は普段見るこ

とのない珍しい色や形の物が多く、また、生産者が自ら販売所で説明をしたり飲食店等からの要望を聞いたりしているという話を興味深く聞きました。その後、横須賀市の大規模産直施設「すかなごっこ」を訪問し、ここでも生産者が競って珍しい品目を用意している様子が伺え、大勢の来客で賑わっていました。

三日目は、農業法人「鎌倉リーフ」が経営する飲食店で代表者の方に鎌倉野菜や農業への取り組みについて話を聞きながら、鎌倉野菜を添えたカレーライスを味わいました。今回の視察研修のテーマ「鎌倉野菜」は個性的な野菜を少量多品目生産している事例が多く、一つのやり方として興味深く学ぶことができました。県外で生産者の方から直接お話を聞けたことも良い経験になったと思います。

花き園芸コース

花き園芸コースは、日本最大の花市場である東京都中央卸売市場大田市場の（株）大

田花き及び有名花店等での流通販売の調査、小石川植物園等で植物の知識を深めるための視察研修を東京都内で実施しました。

（株）大田花きは平成二八年の年間取扱金額が二六〇億円と国内最大です。質、量ともに豊富で安定供給が図られています。特に、競りにかけられているのは全体の二割で、残りは相対取引販売されていることに驚きました。さらに、市場の仕組み等の説明も受け、場内を見学しました。訪問時は、卒業シーズンと彼岸が重なっていて、とても活気がありました。

花店では、日比谷花壇などの五店舗を見学して高級店の雰囲気味わった他、バラに特化した店舗も見学し、首都圏と地方の販売価格の差を実感しました。

小石川植物園は東京大学の教育実習施設であり、東アジアの植物研究の世界的センターです。絶滅危惧種や希少植物を見ることができ、ニュートンのリンゴやメンデルのブドウなどの由緒ある植物も見

学しました。

大規模な市場、首都圏の高級花店、普段は見られない希少植物を目ににして、有意義な研修になりました。

首都圏の高級花店を見学



果樹園芸コース

果樹園芸コースは、東京都内の高級果実専門店と東京都中央卸売市場大田市場を中心に流通販売状況の視察研修を行いました。

高級果実専門店では、外観が農業大学校で収穫したキウイフルーツと大差ない商品であっても芸術的に気品高く陳列されていて、学生たちは目

を丸くしていました。熱心な

商品説明や徹底した品質管理が行われており、接客や商品管理の奥深さを学びました。

大田市場では、様々な産地からの出荷物や競りの状況を見学しました。規模の大きさ、出荷量の多さ、さらには市場関係者の慌ただしそうな作業に圧倒されました。しかし、相対取引が増えて賑やかな競りが減っているようで、学生たちは少し残念に感じていたようです。



高級果実専門店で説明を受ける

ここでは、卸売業者や仲卸売業者の方々や市場駐在の担当者から香川県産果実の評価や課題等、「生の流通ニーズ」

伝統的な日本庭園の技法や都市の緑化の現状を学ぶため、造園緑化コース一年生六名は、京都と大阪で視察研修をしま



仙洞御所の庭園

造園緑化コース

を聴くことができました。香川県オリジナル品種のキウイフルーツやブドウの「シャインマスカット」等は東京での評価が高いので、これらの安定的な出荷に対する期待が強く寄せられました。

この研修を通して、高品質な果実生産に向けてより高い目標を抱くことができたと思います。

今年三月一五〜一七日に岐阜県高山市へ視察研修に行ってきました。高山市は香川県よりも広い市で、標高は五〇〇mを超えます。視察先は標高一〇〇〇mほどの場所でしたので、根雪が残っていて底冷えがしました。

畜産コース

一日目は京都の伏見稲荷神社。二日目は仙洞御所の庭園及び二条城の二の丸庭園です。このうち、仙洞御所は京都御所の中にある皇室の昔の住まいに付随した庭園ですが、池泉回遊式の広大な和風庭園であり、静かで落ち着いた雰囲気印象的でした。

三日目は大阪に移動して、大阪駅と梅田スカイビルを視察しました。梅田スカイビルでは、空中庭園を見学した後、一階に降りました。ここには、あまり目立たない大都市の一面に、里山を再現した立派な庭園があり、大都市における建物緑化の現状を表している大いに参考になりました。

一日目は岐阜県畜産研究所を訪問し、飛騨牛の概要や育種改良の基礎となった飛騨牛種雄牛を見学しました。二日目は飛騨ミート農業協同組合連合会での研修でした。ここは牛肉の衛生管理がしっかりした食肉処理場で、東南アジアだけでなく、EUや北米への輸出も可能とのことでした。午後からは約三〇〇頭の繁殖雌牛に加え、肥育牛も飼育している岐阜県畜産公社飛騨牧場を見学しました。夏季は放牧し、一般農家の雌牛も受け入れています。最後は飛騨牛名人の認定を受けている藤瀬肉牛農場へ行きました。ここ



岐阜県畜産研究所にて

平成二九年一月二六、二七日の二日間、愛媛県松山市において中国四国ブロックプロジェクト発表会が開催されました。本校からは七名、全体で一一七名が出席し、一九課題の発表がありました。



中四プロジェクト発表会の発表者

全国・中四ブロックプロジェクト発表会

は約六〇〇頭の肉用牛を飼育して、管理方法などを教わりました。畜産が盛んな高山市は、畜産を取り巻く環境が香川県と大きく異なっていました。



全国プロジェクト発表会で受賞

本校の発表は二課題。安藤紗恵さんの「盛夏季のホワイトアスパラガス生産の検討」と國重亮太さんの「中生モモ紅清水の摘果の時期と程度の違いが果実に及ぼす影響」です。両名は大勢の前でしっかりと発表を行い、安藤さんは優秀賞を受賞して全国プロジェクト発表会に推薦されました。その後の交流会では他校の学生と親睦を深め、翌日はJAえひめ中央農産物直売所「太陽市」、愛媛県農林水産研究所果樹研究センターを見学しました。本発表会は来年、島根県で開催されることになっています

コース	氏名	課題名
野菜園芸	安藤 紗恵	盛夏季のホワイトアスパラガス生産の検討
	香川 敦也	葉ねぎ用トンネル支柱打ち込み機における太陽光発電パネル設置の有効性
	北 尚也	「農大ふれあい市」でのイチゴ販売
	久保 公二	ブロッコリーの早期畝立てにおける除草対策
	窪田 直之	オクラの摘心によって時期別収量はどうか
	中塚 裕介	「さぬきひめ」の未分化苗定植と開花時期の変動に関する調査
	藤井 翔太	キャベツの株間による収穫期管理
	藤田 結加	オクラの苗立ち本数が草丈、収量に及ぼす影響
	久保 丈一郎	種子繁殖型イチゴ品種「よつぼし」における窒素中断による花芽分化促進法の検討
	戴本 康介	早期畝立てによる土壌の変化がブロッコリーの生育に及ぼす影響
花き園芸	横内 勇太	イチゴのピートバッグを再利用したトマトの養液栽培についての検討
	安藤 凌	エテホン処理による小ギクの開花調節について
	大西 達也	ランキュラスの開花促進技術の検討
	富田 裕大	矮化剤を利用した各種切り花の鉢物化の検討
果樹園芸	二宮 崇彰	切り花ハボタンの品質改善について
	安藤 尚人	ウンシュウミカン「小原紅早生」の樹冠上部全摘果が収量及び果実品質に及ぼす影響
	磯村 勇理	ナン極早生品種「なつしずく」の盆前出荷の可能性について
	岡野 冬弥	カキ「太秋」における窒素系葉面散布が果実に及ぼす影響
	國重 亮太	中生モモ「紅清水」の摘果の時期と程度の違いが果実に及ぼす影響
造園緑化	溝淵 正起	ドウ「シャインマスカット」のフルメット処理回数が果実品質に及ぼす影響
	出淵 毅	フリーソフトとパワーポイントを用いた和風庭園の設計および施工準備
	島原 美空	ポタジェ風花壇の壁泉作成
	神野 聖也	人気樹種の挿し木方法の検討
畜産	高尾 雄太	松竹盆景の作成
	鎌倉 涼香	自家の乳用牛に給与されている輸入乾草の品質調査
	半田 光明	ミツバチヘギイタダニにItrapは応用できるのか
	吉永 慎之介	防虫成分含有ネットで牛のストレスは減るのか

全国プロジェクト発表会は同年二月一三〜一五日に東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。本校からは学生五名が参加しました。まず、記念講演として、全国農業青年クラブ連絡協議会の顧問で、鈴盛農園の経営主である鈴木啓之氏が、「日本の農業をカッコよく！」と題して体験談を通じて経営発展へのプロセスと経営ビジョンに係る事例を話されました。引き続き行われた発表会で

校内卒論発表会

は、本校の安藤さんが中四国の代表の一人として、約三〇〇名の前で立派に発表し、優良賞を受賞しました。また、参加した五名は五名程度のグループに分かれて「私の将来と農業への想い」というテーマの意見交換会に参加し、他校の学生との親睦を深めました。さらに交流会では、学校紹介や情報交換を行いました。

同窓会だより

農業大学校同窓会会長

JA香川ふれあいセンター
飯南店所長 谷本和也さん
私はバイオテクノロジーに興味があり、農業経営高校を

平成二九年一月二〇日に校内卒業論文発表会を行いました。二年生は、専攻実習の授業を通して課題を設定し、課題解決のために調査研究した結果を取りまとめ発表に臨みました。限られた持ち時間の中で、研究成果や問題点、生産現場での実用性などを整理して伝えようとする苦心の跡がみられました。一年生も発表の進行役として活躍し、来年度に向けて発表の場を経験しました。生徒も含めた出席者による採点の結果、優秀者は次の五名となりました。

野菜園芸 安藤 紗恵
果樹園芸 國重 亮太
花き園芸 大西 達也
果樹園芸 安藤 尚人
野菜園芸 藤田 結加

経て平成四年に農業大学校の花きコースに入学しました。当時は花きコースに一五名が在籍しており、トルコギキョウなどの栽培指導を受けておりました。



卒業後は地元での農協に就職し、野菜を担当しました。花きの勉強をしたのに野菜担当となつて戸惑いましたが、イチゴの生長点を確認する際に農大で学んだ技術が役立つ場面がありました。約二〇年間の野菜担当の後、現在の職場に勤務しております。

農大の皆さん、青春時代の貴重な二年間です。共に学ぶ友人との関係を大切にしてください。恩師や友人との繋がりは社会に出ても有益です。私自身、今も時々ではあります。花きコースの友人と同窓会を開いて集まっています。

最後になりましたが、農大の皆さん一人一人がこれからの農業を支える人材になって頂けることを願い、期待しております。

活躍する卒業生

富田 洋平さん（さぬき市）



富田さんは、平成二四年に農業大学校の造園緑化コースを卒業した後、オリーブ果実の加工品の販売などを手掛ける SOUJU（創樹）に就職しました。職場は高松市国分寺町にあり、鉢植えオリーブや苗木の生産で全国でも高い評価を得、県のオリーブオイ

ルの品評会でも優秀な成績を収めている会社です。

在学中は几帳面で何事にも真面目に取り組み、造園技能士二級の資格を取得するなど、優秀な成績で卒業しました。

卒業後も一年間は教育助手として農大で勤務され、よく気が付き面倒見も良いことから学生から慕われていました。

就職して四年目になりますが、オリーブほ場の栽培管理や人員調整などの大きな役割を任されています。ご本人は「忙しさが加速度的に増している」と感じられるほど、多忙で緊張感のある仕事に向き合っています。また、「まだまだ会社も伸びるし、自分も成長中。より良い商品を作り、消費者を感動させたい。」と、頼もしく語ってくれました。

後輩の農大生もお世話になっていきます。これからも体にご気をつけて御活躍ください。

技術研修科だより

技術研修科では、今年度、新たに二つの研修課程を開講します。

一つ目は「就農基礎講座」で、夜間講座六回、半日程度の実習二回を主体に、香川県農業の基本を学ぶ研修です。開講は、I期（六〇七月）とII期（一〇〇一一月）の二回ですが、内容は同じですのでどちらかを選択して受講します。



二つ目は「かがわ農業 MBA 塾」で、農業者が営農をしながら経営を学ぶために、経営管理、労務管理、財務管理、マーケティングなど、五つのカリキュラムで構成されています。七月に開講し、翌年二月までに二回、七二時間の講義を予定しています。

頑張る修了生

大林 義夫さん（丸亀市）

私は会社を退職後、平成二七年一二月から二八年一月までの一年間を就農準備研修生として農業大学校で農業の基礎を学び、地元の丸亀市の集落営農法人に就農しました。法人の構成員は一八名で、平均年齢は七〇歳を超えています。私が、水稲四 ha、麦七 ha、ブロッコリー六〇 a を栽培しており、さらに試験作物としてスイートコーンを新たに導入しています。

地元の法人と言っても、私は転勤族で地元の方々の交流がほとんどなく、農業経験もないのに誘われるままに参加したのが実状でして、今になつてみれば、よく就農したものだと思いません。しかし、私とよく似た経歴で、農地や地域環境を何とかしたいと考えている人が多いことを知りました。

法人として、経営の安定化や将来に向けての人材確保等の課題はありますが、健康で

楽しく体を動かせることに喜びを感じている今日この頃です。



学生募集

オープンキャンパス

開催日は、七月二三日（日）、八月四日（金）、八月一六日（水）の3回で、時間はいずれも九時三〇分〜一二時です。学生を対象とした「農場実習体験コース」は、①野菜、②果樹、③花き、④造園、⑤畜産の五コースからの選択となります。また、学生、保護

者、高校教諭を対象とした「学校施設案内コース」もありますので、開催日の二日前までに本校の教務課に電話で申し込んでください。

入学試験

推薦入学試験の願書受付期間は九月二八日〜一〇月一日で、試験日は一〇月一日です。前期の一般入学試験の願書受付期間は一月三〇日〜二月一三日で、試験日は翌三〇年一月五日です。後期の一般入学試験の願書受付期間は三〇年二月八日〜二月四日で、試験日は二月二二日です。

詳細は本校教務課まで。

農業大学校教職員名簿

校長 高橋 清
副校長 北濱郁雄
総務研修課長 永原 浩
（庶務・経理担当）
主任 大方和男
主任 内藤哲士
主事 宮下千晶
主事 榎原 昇
庁務員

（研修担当）

准教授 横井弘善
准教授 吉田一史
教授 大矢玲二郎
教授 香川秀範

教務課長（兼）北濱郁雄

（学務・農場担当）

教授 松本英治
准教授 川原清剛
農場管理員 和泉弘美
真鍋利正

（野菜園芸コース）

教授 藤村耕一
教授 牛田 均
教育助手 久保公二
石谷孝夫

（花き園芸コース）

教授 山本和人
教授 上原廣大
教育助手 和木佑太

（果樹園芸コース）

教授 山口 登
教授 久保昌弘
教育助手 溝渕正起

（造園緑化コース）

教授 大西孝志
教授 祖一範夫
教育助手 神野聖也

（畜産コース）

教授 真鍋圭哲